

低炭素社会と 排出量取引制度

地球温暖化対策と農業

温室効果ガス排出量取引に関する課題と展望

農林水産政策研究所シンポジウム

国連大学ウタント国際会議場、植田和弘(京都大学)

2011年2月2日

GHG排出量25%削減と政策手段

- GHG排出削減と文明史的転換
- 美しい星50(2007)
- 2050年までにGHG80%削減
- 政権交代と地球温暖化対策基本法案
- Renewable energy固定価格買取
- 地球温暖化対策税
- 排出量取引制度

環境経済戦略の基本理念

- 地球温暖化防止を新しい未来社会をつくる挑戦的課題と位置づけ、低炭素型の技術、まちづくり、ライフスタイル、ビジネスモデル等を先導的に創出していくことに、日本の役割があることを国内外に明示する。(新しい発展パターン)
- 中長期の明確で意欲的な削減目標(確実性)
- 温暖化防止に取り組むことが競争力をたかめる
- 温暖化防止の取り組みが日本の社会経済問題の解決にも寄与(雇用、地域経済、未来産業)

環境経済戦略の推進方策

- 日本経済の環境保全（低炭素）型構造改革
- 炭素に価格を・・・動機付けと公正な費用負担
- グリーン・ニューディール・・・低炭素型社会の基盤整備（social common capital）
- 温暖化防止のものづくりとまちづくり
- 創造性のある産業（研究開発）と地域（分権）
- 創造力と享受力のストック化
- 地域からregional ecological economy

排出量取引制度

- Dalesのidea (供給の固定性と市場)
- アメリカの酸性雨プログラム
- 京都議定書: 京都メカニズム
- EU-ETS、米国、国際的動向
- 排出量取引制度論争
- 初期配分問題とオークション
- (国際)炭素市場と投機的取引
- 制度設計と進化する制度

国内排出量取引制度設計の論点

- 排出量取引制度の構成要素
- ①対象期間と排出枠の総量
- ②遵守に関するルール
- ③排出枠の設定対象と設定方法
- ④排出量のモニタリング・算定・報告
- ⑤費用緩和措置・国際競争業種への配慮
- 制度の基盤整備と制度オプション
- ポリシー・ミックス